

会議録

会議の名称	小中学校通学区域見直し等に関する谷戸町・泉町・住吉町・ひばりが丘地域協議会（第4回）
開催日時	平成22年10月28日（木曜日）午後2時04分から午後3時20分まで
開催場所	西東京市立谷戸第二小学校 2階ランチルーム
出席者	委員：清水理恵、藤原久子、西潟克夫、青木由美、蔵方由紀、河野美晴、上田悟司、八巻真実、眞鍋五十鈴、熊澤義夫、齋藤雅子、前野陽子、齋藤勝利、清水則之、門馬晶子、嶋田実穂、楠本善之助、羽田八三九、西嶋剛昭、西岡一美、米田明未、住田佳子、大野雅生、田代裕子、佐藤裕子、二谷保夫 事務局：櫻井勉（教育企画課長）、清水達美（教育企画課企画調整係長）、後藤幸男（教育企画課学務係長）、相澤潤子（教育企画課企画調整係主任）、坂本義隆（教育企画課企画調整係主任）
議題	1 開会 2 会議録の確認 3 資料説明 4 意見・質問 5 次回の開催日程について 6 閉会
会議資料の名称	資料1 谷戸町2丁目1番の通学区域変更後の就学人口推計（小学校・中学校） 資料2 通学区域見直しにあたってのシミュレーション
記録方法	☐ 全文記録 ☒ 発言者の発言内容ごとの要点記録 ☐ 会議内容の要点記録
会議内容	
議題1 開会 議題2 会議録の確認 第3回の会議録は委員の承認が得られたものとし、（案）を外して正式な会議録とする。 議題3 資料説明（事務局から） 資料1の説明 議題4 意見・質問 ○会長： 中原小の通学区域の飛び出した部分を谷戸小に戻した場合のシミュレーションを資料1で示した。前回同様、グループに分かれて資料1の検証を行い、意見を発表する形をと	

りたい。

(3グループに分かれて討議→再開し発表)

○第1グループ：

- ・通学区域を大幅に変えることなく、谷戸小、中原小の児童・生徒数をかんがみ、まずは特例措置をなくすということを考える。
- ・中原小建替えの話がいずれ出てくると思うので、その際に再度、子どもたちが安全に通えるような通学区域を考える。

○第2グループ：

- ・通学区域の変更をしてしまうと、複雑な要素があるので場所によっては厳しい状況が出るところもあるだろう。子どもの安全を考えて、もう少し丁寧に通学区域の変更を考えていく必要がある。

○第3グループ：

- ・谷戸小の児童数に関して、変更前では1学年2クラスになり活気がなくなり運動会が寂しい。中原小の通学区域の飛び出した部分を変更するだけで、児童・生徒数が大きく変わることがわかった。
- ・中原小の通学区域の飛び出した部分の中でも戸建部分とマンションで通学区域を分けたらどうか、という意見も出たが、そう簡単にはいかない。

(事務局から資料2の説明)

○会長：

今まで出されたシミュレーション（1、2、3）について、資料2を用いて説明があった。1ページ目に各シミュレーションの違いが示しており、次のページの表は、数字の移り変わりを示している。資料2に対して再びグループ討議をし、意見・質問をいただきたい。

(3グループに分かれて討議→再開し発表)

○第1グループ：

- ・中原小からひばりが丘中、谷戸小から田無二中に通う形を原則とし、中学校の通学区域はシミュレーション3が良い。
- ・中学生になる時は部活動などで学校を選ぶなど、自分の意思が働くと思うので、その際は学校選択制度を活用してもらう。

○第2グループ：

- ・シミュレーション1か3が良い。これは小学校を中心に考えた結果である。シミュレーション2では平成28年度に谷戸小が18学級に、中原小が16学級になり、逆転してしまう。ただし、学級数だけでは判断できない部分もあるので、他の要素も考慮の上検討する必要がある。

○第3グループ：

- ・小学校から中学校へ進学する時に2つの中学に分かれるのは良くない。
- ・シミュレーション1か3がすっきりしていると思う。
- ・シミュレーション2は谷戸小がいっぱいになってしまう。
- ・田無二中にとっては13から14学級が維持されていないと、全部の教科の教員が確保できない。学級数だけで考えると、シミュレーション3よりシミュレーション1が良い。

○会長：

どの部分を優先するかは、それぞれの立場があると思うので、アンケートを実施する。

○事務局：

各シミュレーションのメリット、デメリットの資料と、どのシミュレーションを選択するかアンケートを11月第1週から第2週ごろに送付するので、11月中にご回答いただき、その結果を集計して次回会議で示したい。

○会長：

他に必要な資料はあるか。なければ次回の開催予定の調整をする。

議題5 次回の開催日程

○会長：

次回は12月13日（月曜日）午前9時30分から住吉小学校で開催する。

議題6 閉会